

平成 24 年度 第 3 回 富田林市総合計画フォローアップ会議 会議録概要

- ◆日 時：平成 25 年 2 月 18 日（月）（13：00～16：00）
- ◆場 所：富田林市役所 2 階 201 会議室
- ◆出席者：大西委員、西野委員、前川委員（座長）、湯口委員、吉川委員（メールでの参加）
事務局：和田、山下、谷口、北村

発言者	発言概要
座長	<p>■過半数の委員の出席により会議が成立していることを報告。</p> <p>■傍聴人の確認 ⇒傍聴人 1 名あり。</p> <p>■前回（第 2 回）会議の議事録の確認。 ⇒一部修正する。</p> <p>■前回（第 2 回）の会議をうけて、たたき台として作成した「平成 24 年度フォローアップ会議報告書（案）」（以下報告書案）の内容について意見交換</p>
	<p>全体の構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・Ⅰ. フォローアップ会議の基本方針 ・Ⅱ. フォローアップ会議等報告書に対する取り組み状況の評価 ・Ⅲ. 総合計画の進捗状況の評価～事務事業評価より～ ・Ⅳ. 次期総合計画に向けて ・終わりに <p>これでよろしいか。 では、前から順番にご意見をいただきたい。</p>
	<p>◆【はじめに】について</p> <p>今年は、英国に留学中の委員にメールという方法で会議に参加していただいたことを報告するとともに、「このことに感謝したい。」と一文入れたい。</p>
	<p>◆【Ⅰ. フォローアップ会議の基本方針】について</p> <p>【1. 基本方針の確認】については問題なし</p> <p>【2. 今年度会議のあり方】についてのポイントは「評価の継続」と「次期総合計画の準備」の 2 点でよろしいか。 「会議のあり方」が、文章と四角く囲って抜き出している部分とで、内容が重複しているので、抜き出し部分を削除したい。</p>

座長	併せて「検討項目」についても、抜き出さずに文章に入れ込んでしまっではどうか。
委員	「検討項目」は、抜き出していたほうが見やすいので、このままが良い。
	<p>◆【Ⅱ. フォローアップ会議等報告書に対する取り組み状況の評価】について</p> <p>・【①行政評価シート・フォローアップシートの活用の全庁的促進。】 語句の修正⇒「繋げる」→「つなげる」</p>
座長	一定の成果を認めた表現となっているが、問題ないか。
座長	<p>・【②発想の転換に勤める職員の評価・育成と、発想の転換を良しとする職場風土の醸成】 「フォローアップ会議の資料や、議論の内容を、『職員』及び『市民』が有効活用できるように、効果的なフィードバックの仕組みを構築する。」ことを今年度の提案としているが、その仕組みの構築にあたっては「わかりやすい情報作成」という部分が、最も大事なのではないかと思う。</p> <p>提案事項中では「効果的な」という言葉でまとめられているが、「わかりやすい情報を作成し、フィードバックする」としてはどうか。</p>
委員	提案事項の「効果的なフィードバック」の方法としての、「わかりやすい情報作成」なのだから、このままでよい。
座長	<p>「職員に、この会議の資料を眺めることで何らかの問題意識や参加意識を持たせることができないか」の部分で、「職員にさせる」ではなく、職員の自主的表現に変更したい。</p> <p>語句の修正⇒「眺めることで」→「触れることで」 「持たせること」→「持つこと」</p> <p>21年度、22年度で積み上げてきたものを含めて、24年度ではこれだけの資料が整備された。</p> <p>これらの資料を、誰にとっても、わかりやすく、見やすく、活用できるように、公開していただくというのが、この部分での提案である。</p>
	<p>◆【Ⅲ. 総合計画の進捗状況の評価～事務事業評価より～】について</p> <p>・【取り組みの状況】</p>
座長	「全体として取り組みが進んでいるとの印象を受けました。」と書いており、評価している表現になっているが、問題ないか。
座長	<p>・【評価と課題】 200以上ある全事業のうち9事業を点検しただけなので、冒頭に「抽出事業を見る限り」と入れておきたい。</p>

座長	<p>「成果指標設定マニュアル」については、より良いものにして欲しいという視点で、内容のさらなる充実・改善について触れておきたい。</p> <p>具体的には、「事業効果の確保に有効であると考えます。」の後に、第2回会議で議論した成果指標の設定にあたっては数値化されていることだけではなく、質的なことを重視してもよいのではないかと改善の指摘を入れたい。</p> <p>事務事業評価については、誰でも自分の関心があるものを選んで、評価結果を見ることができる形になっているのが理想である。</p> <p>語句の修正⇒「その情報を「職員」及び「市民」が活用できるようにすることも大切です。」→「～することを提案します。」</p>
委員	その提案はとてもいい。
座長	<p>今の職員による事務事業評価を否定するのではないが、別の視点から検討したり、意見を述べさせてもらうことも必要と考えることから、“次年度には事業評価が行われている、全事業に対して、フォローアップの視点からも評価したい。”旨を追記したい。</p>
◆【Ⅳ. 次期総合計画に向けて】について	
座長	<p>前回の会議で、次期総合計画の開始から逆算すると、もう準備を始める時期にきているので、工程表に「市民参加」や「職員参加」を組み込んでいってはどうかということを議論したが、今日の会議では具体的に結論を決めていかないといけない。</p>
事務局	<p>報告書案の「Ⅳ. 次期総合計画に向けて」の部分は、委員から第1回会議の際にいただいたご意見を元にまとめていますが、その内容を見ていただいて、若干整理し直された委員の修正案（以下修正案）と、修正案の考え方（以下考え方）をまとめ、再度ご意見をくださっています。</p>
委員	我々の議事録も見ていただいたうえで、全体的に整理し直していただいているのはありがたい。
事務局	<p>修正案では、今年のフォローアップ会議では時間的な制約もあり、次期総合計画の素案作成プロセスの具体的な提案までは、難しいと思われるので「来年のフォローアップ会議までに、市民参加を重視した素案作成のプロセスを作ること」を提案してはどうか、との観点で提案をまとめていただいています。</p> <p>総合計画の理想像を提示し、理想とする総合計画にするためには、素案の作成のプロセスを検討することがまず必要で、そのやり方でいくと、フォローアップ会議はどのように進めるかを整理されています。</p> <p>次期総合計画策定までの具体的な年数（プロセスの具体化）までは踏み込まないでおこうという感じです。</p>

座長	<p>修正案どおり、1番目に「総合計画のあり方と素案作成プロセスの検討」、2番目の「今年度以降のフォローアップ会議の進め方」をもってくるほうが良いように思うので、修正案を元に議論していきたいと思うがよろしいか。</p>
	<p>◆【1. “総合計画の”あり方と素案作成プロセスの検討】</p> <p>【(1) “総合計画のあり方”】について</p>
座長	<p>1段落目と2段落目で、言わんとしていることは同じことだと思われるので、2段落目は全削除して、『職員ひとりひとりの役に立つ「計画書」を作成することが理想だと考えます。』までで止めても、良いような気もするが。</p> <p>また、「理想」という言葉は人それぞれで捉え方が違うことと、これまでのフォローアップ会議では「大切」という言葉を使ってきていることを考えると、「理想」を「大切」に言い換えたい。</p>
委員	<p>「大切」「大事」といった表現で良い。</p>
座長	<p>2段落目を全削除してはどうかと先ほど述べたが、一方、2段落目に書かれている『基本構想』は、市民と職員が、市が目指す方向を共有するための手段』という部分が大事だと感じた。</p> <p>「市民にとっても、具体的でわかりやすい計画書である必要があります」といった内容も加えて…手段とする。というかたちでまとめてはどうか。</p> <p>“総合計画のあり方”は、職員ひとりひとりにとって役に立つ大事な計画書であると同時に、市民にとってもわかりやすいことが必要だと思われるので、そこをはっきりさせるような内容でまとめたらどうだろうか。</p>
委員	<p>文章のいい部分を、あっちとこっちとつなぎ合わせると、委員が意図されていることと、こちらの意図とが、ちぐはぐになる恐れがある。</p>
委員	<p>確かに文章がおかしくなる。</p>
座長	<p>我々が言いたいことを、我々が決めれば良いということですね。</p> <p>「自身の仕事の意味・意義に悩んだ時、判断に迷った時に…」の箇所は、委員は、我々が議論しやすいように、いろいろ具体例をあげてくださっていると思うが、報告書には省いてもいいのではないか？</p>
委員	<p>確かに省いても良いように思う。</p>
座長	<p>委員はメールでのご意見になるので、我々にわかりやすくするための配慮として、具体的に書いていただいているのだと思うが、職員に対してのことを報告書にここまで書くのはどうだろうか。</p>

座長	<p>仕事をする職員にとっての基本計画であるから、やはり、目指す方向でもあり同時に役に立つ計画でもあると…</p> <p>前回の会議で「町会への市役所からの説明会」の話題があったが、そういう場所へ職員は基本計画や実施計画書などを持って来ていなかったか？</p>
委員	<p>持ってきていなかった。</p>
座長	<p>そういう場に持って行き、活用することで、職員も説明しやすく、市民もわかりやすいというふうな総合計画になればいいのでは。</p>
委員	<p>私は職員のみなさんが、総合計画を見たことがあるのかが疑問である。</p>
座長	<p>次期総合計画は、みんなが使えるものにしたらどうか？というのが、この部分での提案である。</p>
委員	<p>それは委員の意見ですね。</p>
座長	<p>私も同意見である。</p> <p>作っても使わないのでは意味がない。もっと使いこめるような計画書になるのが良いと思う。</p> <p>今の議論をまとめることを事務局にお願いしたい。</p>
事務局	<p>「基本計画」は、職員の意思表示の手段 「基本構想」は、市民と職員が目指す方向を共有するための手段 の部分はそのまま良いか？</p>
座長	<p>総合計画審議会では、基本構想と基本計画まで答申するので、『「基本構想」』に“「基本計画」”を加え、『「基本構想」「基本計画」は市民と職員が、市が目指す方向を共有するための手段』ではないかと思うのだが…。</p>
事務局	<p>おそらく、趣旨としては、「基本計画」と「基本構想」の色分けをしておられるのかと思う。</p> <p>その部分の考え方として、</p>

<p>委員 (メール)</p>	<p>「基本構想」:市民のニーズを十分に取入れた市の施策の基本ポリシーを、市民と職員の両者に開示し、両者が共有するもの。市民にわかりやすい言葉で書かれていることが重要。</p> <p>↑↓(行ったり来たり)</p> <p>「基本計画」:市民のニーズを十分に取入れたうえで、市の施策・業務・事業に関して、役所としての諸条件・諸制約をふまえながら、職員の全員参加で作上げる「基本資料」。もちろん市民への説明資料となるが、庁内で使いやすい項目立て、表現であることを重視する。</p>
	<p>という「基本構想」と「基本計画」の役割分担のようなものを、まとめていただいていると感じている。</p> <p>それをまとめたものがこの文章であるので…</p>
<p>委員</p>	<p>考え方を要約した文章である、と。</p>
<p>座長</p>	<p>第4次総合計画を作った時は、全体的な枠組みである「基本構想」を考えるグループと、「基本計画」を考えるグループ、市民懇談会で2つに分かれて議論をした。</p> <p>そういう意味でも、やはり、この部分は「基本計画」までは入ってくるのではないだろうか。</p> <p>「基本計画」に『もちろん市民への説明資料となるが』と書かれているが、『職員の全員参加で作上げる「基本資料」』とも書かれている。委員の考え方に例示されている工程を見ると、市民の意見を聞く場として、工程③「市民と議論を戦わせることができる職員が参加」や、工程⑤「市民懇談会の意見集約作業と市民へのフィードバック」というふうに書かれている。</p> <p>『「基本計画」「基本構想」』と入れてもらったらいいのではないかと思うが。</p> <p>そういう意味では、『職員ひとりひとりの役に立つ“計画書”』の部分の“計画書”は、初めは“バイブル”という言葉を使っていたのが“計画書”“基本資料”という言い方に変ってきているが、やはりトータルでは“総合計画”であろう。</p> <p>この中の資料部分は、もちろん付録になってくるのであるが。</p>
<p>事務局</p>	<p>では、議論をまとめると『「基本構想」』に『「基本構想」「基本計画」』と付け加えることでよろしいか？</p>
<p>座長</p>	<p>そのようにお願いしたいが、どうか。</p> <p>それと“計画書”という表現は、また別個の計画があるように感じられるので、“総合計画”とまとめてはどうかと思う。</p> <p>うまく言えないが、総合計画の冊子。冊子が総合計画書で、総合計画自体はこの冊</p>

座長	<p>子の中身なのであるが。</p> <p>初めの“バイブル”という表現にとらわれていたが…総合計画のこの冊子のことであろう。</p>
委員	<p>そのように思う。委員の言わんとしている“バイブル”は。</p>
事務局	<p>『「計画書」』を『「総合計画書」』に修正する、でよろしいか？</p>
座長	<p>そうしてしまったほうがわかりやすい。</p>
委員	<p>“バイブル”という言葉も修正なさっていることでもあるし、良いのではないか。</p>
座長	<p>では、そういったかたちで「総合計画のあり方」ついて、他に何か書いておくことはないか？</p> <p>なければ、次に移りたい。</p>
座長	<p>◆【(2)“素案作成プロセス”の検討の必要性について】について</p> <p>事務局としては、この修正案はどうか？</p>
事務局	<p>「職員の手で、理想とする総合計画のあり方の検討を、素案作成のプロセスを含めて、来年度当初から考えてみることを提案されていると思われる。その提案のとおり実現できるかどうかはわからないが、フォローアップ会議として提案していただくことは、事務局としては問題はない。</p>
座長	<p>委員は、今回かなり『職員の全員参加』を提案されていて、現場の意見をうまく聞くことや、それが職場や組織のリーダーの責任であるといったこと、そして、「やらされている感」を無くしていく、自分でやっていくといった気持ちを形にしていきたい、ということと言わんとされているのだと思う。</p> <p>これらは非常に大事なことだと私も思う。</p> <p>だから、『職員の全員参加』の作業が余分な仕事だと認識されないように、業務として位置付ける必要がある、と。</p> <p>続く『これには、計画作成への貢献が評価される機運が醸成する期間も必要です。』という部分はどのように解釈したらいいのだろうか？</p> <p>全員参加型で計画を作成してきた、そのことへの貢献が評価されることが大事である、ということだと思うが…その評価される機運を醸成する“期間”？</p> <p>『期間も必要です。』というのは、どういった意味であろうか。</p>

委員	考える時間があつたほうがいい、という意味だと思う。
座長	この部分は、評価される機運を作り上げていくことが大切なのか、作り上げていくのに時間がかかるのか…
委員	作り上げる時間では？
座長	業務の一環と位置づけたのであれば、評価は必然的になされると思われるので、この1行（『これには、計画作成への貢献が評価される機運を醸成する期間が必要です。』）は無くてもいいように思う。
委員	では、全部削除ということか。難しい。
座長	とりあえず保留として、先へ進みたい。 『準備作業・素案づくりの際に重要と考える内容』として ①各課において、その課が何を目的としているのか、自らの言葉でまとめ上げる。 ②それぞれの事業や取り組みについて、課の目的に照らしながら、目的と効果を明文化する。 ③仕事の効果を「把握・分析」するために、どのような指標や数値が役立つかを考え、提案する。 と、3つ挙げられるが、これはどこか実施計画のように感じられる。
委員	この部分は全部削除してもよいのではないか。
座長	これは、この素案は、あくまでも総合計画の基本計画であつたり、基本構想を作っていく、それを業務として現場から作り上げていったらどうか、という提案をしようとしているのであるが…みなさん、いかがか。
委員	（委員の修正案の）『上記の（1）で述べた』から始まるまとめのところで、『（1）で述べた』や『（2）で提案した』と、引用してる内容との整合がとれれば、説明が長く理解しづらいが、このままで良いと思う。 『準備作業・素案づくりの際に重要と考える内容』の①②③は、確かにこのとおりだと思うが、これはちょっと…
座長	『（1）“総合計画の”あり方と素案作成プロセスの検討』『（2）“素案の作成プロセス”の検討に必要性について』の内容を、こう進めてくださいとまとめている、と。
委員	というふうに読んだが。

座長	<p>我々としてはどう考えるか。 素案の作成プロセスについて、何か提案できれば良いのではないかと思う。</p>
事務局	<p>委員の考え方では「報告書の内容に関する提案」として、「①今年度のフォローアップ結果」と「②次期総合計画の素案作成プロセスに関する委員意見」の2本立てとすることを提案していただいている。</p> <p>「①今年度のフォローアップ結果」は、報告書案のⅠ.Ⅱ.Ⅲ.で、「②次期総合計画の素案作成プロセスに関する委員意見」は、報告書案の「Ⅳ.次期総合計画にむけて」というタイトルで整理している。</p> <p>そして、次期総合計画の、素案の作成プロセスの検討をすることについて、「Ⅳ-1-(2)“素案の作成プロセス”の検討の必要性」で提案していこうとしている。</p> <p>委員の考え方では、素案作成プロセスの具体的な提案までは難しいため、素案の作成プロセスの検討の必要性を提案したい、とされています。</p> <p>読み上げると「あと2回の会議でプロセスの具体化までは難しいと思うので、「次年度フォローアップ会議までに市民参加を重視した素案作成プロセスを構築すること」を委員からのリクエストとし、特に留意すべき点を委員意見として示す、といったイメージです。」</p> <p>この会議が終わって、来年度に入ったらプロセスを構築する、ということ在今年のこの報告書の中で述べておこう、といったものかと思います。</p> <p>先ほど読み上げた部分以下に書かれている素案策定プロセスは、概ねの流れを例示をされているもので、今回、具体的にここまで踏み込むことは難しいとされています。</p> <p>しかし、想定されるのはこういう流れであると例示してくださっており、それに基づくものが『事務作業・素案づくりの際に重要と考える内容』で、素案づくりに何が重要であるかということが、①②③に凝縮されていると思います。</p>
座長	<p>それと、この委員の考え方の工程とは少し違うと思うが。</p> <p>「事務作業・素案づくりの際に重要と考える内容」は、やはり市民参加の場をやることであったり、25年度のフォローアップ会議の開催であったり、市民懇談会の開催といったことだと考えるが。</p>
事務局	<p>委員の考え方で例示していただいている流れの中に、市民懇談会の開催や、フォローアップの会議の開催にも触れられています。市民懇談会等での市民の意見の集約、そして、それらの意見をフィードバックしたうえで、各課で検討して素案を作り上げるといった形で、総合計画委員会にも触れておられますが、その前に、まず素案作成のプロセスの検討をと、言われています。</p> <p>それをうけて、今年の提言としては、素案づくりの作成のプロセスの検討に留めておられると感じる。</p>
座長	<p>(21年度フォローアップ会議で提案した)次期総合計画にむけた工程表(以下工程表)があったと思うが、あの工程表にいわゆる市民懇談会や、考え方に例示されて</p>

座長	<p>いる工程を、今回書き加えたらどうかと思うのだが。</p> <p>工程表には、基本計画検証会議から第5次総合計画審議会までは書いてあるが、その前に、何か付け加えていく必要があるのではないかと思う。大きなプロセスを、ここで工程として書き加えていったら、どうだろうか。</p>
委員	<p>新しい工程表にするのか？</p>
座長	<p>工程表へ書き加えるイメージである。</p> <p>考え方に例示された工程はよく考えておられて、今が25年2月であるから、日程的にどう頑張ろうともこうするしかないだろうという工程になっている。</p> <p>この工程に、私の意見を加えて補足すると以下のイメージである。</p> <p>①25年度前半 素案作成プロセスの構築 ↓ ・政策推進課が主体となって枠組みを作る ↓</p> <p>②25年度半ば フォローアップ会議の開催 ↓ ・早い目にも開催することも提案する。 ↓ ・今までの進捗状況の確認作業と次期総合計画にむけての準備はどうなのか ↓ という2点を点検する会議になる。 ↓</p> <p>③25年度後半 市民懇談会 ・名称にはこだわらない。</p> <p>一方で、庁内でも、部課長で構成された作成委員会が組織されると思うが、委員の意見は、その前に職員全員が参加して、まとめていく必要があるということ今回は強く書かれている。</p> <p>部課長だけの意見ではなく、現場の職員の意見を集約しながら、全員参加するような形で、庁内の意見をまとめてほしいと我々としても今回提案する。</p> <p>そして、プロセスとして工程表に、何年度～というある程度の案としての時期を記入していかないと間に合わない。</p> <p>今年のフォローアップ会議は、開始時期が遅かったため、日程が非常に厳しくなっており、次期総合計画にむけては、そういうことがないようにしっかり提案していかないと間に合わない時期にきている。そういう意味では、委員の考え方に例示された工程は大変参考になる。</p> <p>ただ、今言ったような庁内の委員会は書かれていないが、市民懇談会と並行していくイメージである。</p> <p>その中で、両者の委員の意見交換会を持つことはできるし、そういった場に意見を戦わせることができる人に出てきてもらいたいと、委員はおっしゃっているのだと思う。</p>

事務局	<p>修正案で、委員は「素案づくりの作成プロセスを考えてみてはどうか」と提案されており、準備作業は各課でこういった点に気をつけて行う必要があるという注意点に触れておられるが、具体的な工程にまでは踏み込んでおられない。</p> <p>この部分を、踏み込むのかどうか、整合を取っておかなくてはいけないのでは。</p>
座長	<p>私としては、具体的な工程までを今提案しないと、この段階で待っていたら、また遅れて、再来年に対しての提案になってしまう可能性があるので、来年ぐらいから動き始められるよう提案したい。</p> <p>市民懇談会については、この前から少し意見しているように、市民がいろんな場へ参加するようになってきており、専門性を持つとまでは言い切れないが、専門性といっていいような部分が育ってきていると感じている。</p> <p>そういう市民が、自分の得意とする分野の施策について意見を言えるような形、そういうものを保障するような市民懇談会であることが望ましいと思っている。</p> <p>だから、素案づくりの作成プロセスに、「職員の参加」と「市民の参加」を、両方書き、市民参加については、公益活動や町会活動、公民館活動などに参加し、意見を持っている様々な人に参加してもらうことを提案したいと思う。いかがか。</p> <p>第4次総合計画は、どちらかといえば抽象的な市民参加だったが、第5次総合計画では、資料的に予算も見えるようになってきており、そういう中でこういった施策が必要なのかについて、市民側も責任感を持って発言できるのではないかと思う。</p> <p>そういった形で、素案の作成プロセス…素案には内容もあり、工程もあるということになるが、市民懇談会で作ったり、どういう内容の懇談会かはわからないが。あるいは庁内の委員会を作ったりするといった組織づくりも、素案のひとつであると考え</p> <p>そのうえで、総合計画のあり方と素案作成プロセスの検討という形で検討することを提案したい。</p>
委員	<p>委員の修正案では、素案づくりはこういう考えで行ってくださいという大まかな提案であるが、フォローアップ会議としては、それ以上に踏み込んでいくということか？</p>
座長	<p>私はそうしたい。政策推進課には負担をかけるかもしれないが。</p>
事務局	<p>そこはフォローアップ会議としての意見をまとめていただければ結構です。それを受けて、我々も考えていかないといけない。</p>
座長	<p>工程表に書いていくということで、よろしいか。</p>
委員	<p>どう書くのがいいのかが難しい。</p>

座長	今、工程表の27年度、28年度の2カ年の欄に総合計画審議会開催の矢印が入っているが、これは委員の考え方によれば1カ年に短縮できるだろうと。
委員	1年で十分か？
座長	今回は1年で終わるであろう。
事務局	総合計画審議会自体は、考え方に例示されたような準備作業をやっていけば…ただ、職員が考えるときに時間がかかるだろうと、書いておられた。
座長	<p>工程表は、あくまでも提案である。</p> <p>審議会は2カ年取っているけれども、多めに見積もって1年半程度に減らしてもいいかもしれない。</p> <p>第4次総合計画は発行が本来の始期から1年程遅くなってしまった。</p> <p>総合計画は予算を直接動かすものではないから、それでも問題なかったのであろうが、次期総合計画については、予算と連動するような形で基本計画を考えないと…財政面での見通しということが第4次では、時間がなかったこともあり、全く議論されなかった。</p>
委員	今後も財政難は続くため、その観点は必須である。
座長	第5次総合計画に向けては、予算を意識しながら検討していくことも大切であるということを提案しておく必要がある。
委員	財政状況に見合った計画といったようなことか。
座長	<p>そこまでではなく、大枠の見通しのようなものは意識しておく必要があるというぐらいの一文でどうだろうか。</p> <p>工程表については、案として市民懇談会、庁内委員会を工程表に追記するとしてよろしいか。</p> <p>具体的には、工程表の第5次総合計画審議会の行の、25年度・26年度部分に「市民参加」「職員参加」の矢印をいれる。</p> <p>その工程表を、報告書の一部として『おわりに』の前にいれてはどうだろうか。</p>
事務局	フォローアップ会議資料一覧として掲載してはどうか。
座長	では、それでよい。
事務局	今までのお話しを伺っていると、やる気のある職員をどう取り込めるか、総合計画に対する職員の認知度をどう上げるかが問題だと考える。

事務局	委員のご意見も、今日の会議でのご意見も踏まえて、全庁的な職員層の意見の取り込み、こういったしくみを庁内に作るのが良いのか考えたい。
座長	25年度であれば、各課や部で、すでにある第4次総合計画を見て、こういった意見を持つのかを集約して、第5次を考えていってもらえれば良いのではないか。
委員	アンケートはどうだろう。
事務局	職員は自分の担当業務を工夫するとか、市民ニーズを取り入れたりするのは得意だが、総合計画全体の組み立ての中で論議するのは苦手かもしれない。
委員	総合計画に興味があって、市民との会議等に行ってみようかという気持ちを持つ職員に参加してもらうことはできないだろうか。
座長	変に責任を持たさないで、自由に意見を言える環境を作ることは大事である。
委員	興味がある者だけで行ってしまうと、全庁的な盛り上がりにはならない。
委員	それでも、勉強しようという気持ちを持った人でないと難しいと、今までの経験から感じる。
座長	素案プロセスに対しては、ひとつは工程表を提案していくことと、もうひとつ、会の作り方について、市民懇談会のように市民が参加できる場、特に先ほども述べたが、公益活動等も進んできているので、そういう市民の専門性も活かしていくような形での市民の参加の仕方を考えていくと、一方、庁内組織に関しても、職員の全員参加という方法や、事務局から職員の意識改革が進んでいる例として挙げられた自主研究グループや、あるいは自分の業務以外であっても関心がある職員は参加できるように促しながら、素案づくりをしていく。
事務局	過去に、市の大きなテーマに対して、役職関係なしに職員の手あげ方式で組織を作り、素案を作成した例はある。
座長	では、そういうふうな組織づくりをして、総計の素案づくりをすると同時に、自主研究グループにも課題を投げかけ、考えてもらうのもひとつなのではないかと、提案したい。
事務局	その部署で今後こういったことをやっていく必要があるのかの政策論議がある部署と、ない部署があるように感じている。 欠けている施策、遅れている施策の把握は、行政サイドとして認識する必要がある。すべてが一律というわけにはいかない。

座長	<p>そういった把握に、庁内組織として委員会を作られるのだと思う、それは手あげ方式なのか、管理職へのあて職なのか…最後は管理職の責任になるかと思うが、職員の手あげ方式という方式を提案したいと思いますが。</p>
事務局	<p>部長推薦という手法を取ったこともある。</p>
委員	<p>その程度が妥当ではないか。組織である以上、部長が把握できないままに、職員が勝手に参加できるのはおかしい。</p>
座長	<p>手あげ方式であっても、上司の承諾は必要である。</p>
事務局	<p>委員のご意見にあった「職員に対するフォローアップ会議のフィードバック」が重要であると思っている。どううまくフィードバックできるか。</p>
座長	<p>手あげ方式、部長推薦であっても、やる気のある職員で総合計画を作ることに关しては問題ないと思われるが、例えば委員のご意見にもあるような、職員全員が総合計画を認識するという観点からは、そこに温度差が出ることになってしまうと思われる。</p>
委員	<p>委員のおっしゃる職員の全員参加は理想ではあるが、現実的でないと思う。</p>
事務局	<p>職員全員が役所全体のことを認識するのはなかなか難しいので、少なくとも、自分が所属する部内の関係課のことは一定把握できているようにしたい。</p>
座長	<p>第3次に比べて、第4次総合計画の職員からの認知度は上がっていると思うが、それで満足するのではなく、フィードバックのように活用して、活用することは負担を増やすのではなく、活用することで活かしていこう。投資したものは、活用することで、元を取っていかうというふうになればよい。</p> <p>フィードバックすることや、よりどころにすることは第4次総合計画にはまだなかった意識である。</p> <p>市民と職員との間で、共通認識を持つことの手助けをする総合計画にしていければと思う。</p> <p>委員もそういったことを考えておられるのではないかと思う。</p>
委員	<p>役所はどんなことでも、報告書を作ったら終わり、行事をしたら終わりという傾向が強い。意味のある反省をして欲しい。</p>
座長	<p>そういったフィードバックのことを書きながら、どういう形で職員が参加したり、市民が参加したり、これが最適という方法はないが、自主研究グループのようなものや、やる気ある職員を活かし、職員も市民も意見が活発な委員会を作っていけない。</p>

委員	報告書には、職員の全員参加で作るにはどうしたらいいのか、どういう組織を作るのか、まで書くのか。
座長	<p>文章中『課ごとに会議を重ね』の部分にプラスして、今までの議論を付け加えたい。</p> <p>委員が提案している『準備作業・素案づくりの際に重要と考える内容①②③』は実施計画のような印象を受けるので、削除してもよいか？</p> <p>素案作りの作成プロセスに、職員の全員参加型を少し緩めて、“できるだけ多くの参加を得ながら”や“自主研究グループの力も借り”といった表現に変えたほうが良いと思う。</p>
委員	全員参加型に、どこか違和感がある。
座長	<p>職員により素案づくりを業務の一環と位置づけるという委員の意見には同意である。</p> <p>「準備作業・素案づくりの際に重要と考える内容①②③」は、抜き出して書く形ではなく、先ほどの“できるだけ多くの参加を得ながら”に続ける等して、文章中に入れ込みたい。</p> <p>そして、そういう職員の参加と、市民の参加を忘れることがあってはならないと、つなぎ、具体的には「工程表に、市民の参加期間や職員の検討期間を例示しました」。</p> <p>また、市民が持つ専門性に触れておきたいので『その分野に関わりがある“専門性を持った”市民に参加していただく』と加えたい。</p>
座長	<p>◆【2. 今年度以降のフォローアップ会議の進め方】について</p> <p>『(2) 次期総合計画に準備に向けて』</p> <p>語句の修正⇒「担いたいと考えます。」→「担う必要があります。」</p>
座長	<p>◆【おわりに】について</p> <p>全体に「市民参加のしくみづくり」が成長したような表現となっているが問題ないか？</p>
委員	間違いではない。大きい成長でなくとも、成長は成長である。
座長	『地方自治法の改正により、総合計画（基本構想）の策定・議決義務がなくなった』の部分で“（基本構想・基本計画）”とすることはできないか？
事務局	議決義務があったのは基本構想だけであるので、「総合計画の策定義務はなくなりました」と変更は可能。

座長	<p>総合計画の策定義務がなくなった後の対応策として、例示している選択肢は、これだけに限定しているような印象をうけるので削除して、「策定義務はなくなりましたが、自らの意志をもって～」としたほうが“今までの取組みをさらに活かすためにも、策定義務はなくなったが、策定してほしい”という、この部分の本来の趣旨がわかりやすい。</p> <p>次期総合計画の作り方についての提案している部分があるが『Ⅳ. 次期総合計画に向けて』と同内容なので、削除してはどうか。</p> <p>最後の『第4次総合計画で示された「市民参加」「市民協働」の精神は、これからの時代を切り抜けていく“礎”であり、次期総合計画においても、その精神が受け継がれることを願っています。』部分について、いくつか気になる語句がある。</p> <p>これまでフォローアップ会議では「理念」「考え方」という言葉を使ってきたので、変更したい。</p> <p>語句の修正⇒「精神」→「理念」 「これからの時代」→「これからの富田林」 「切り抜けていく」→「切り拓いてく」「育てる」「育む」</p> <p>大事な部分であるが、“礎（いしずえ）”とは「基礎」という意味だが、「市民参加」は固定化されたベースではなく、動きのある手法なので「もの」「ちから」と言い換えたい。</p>
----	---